

JAAF MIE

三重陸協会報

第5号

一般財団法人 三重陸上競技協会



事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重県営総合競技場陸上競技場内) TEL・FAX 0596-22-8890 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 豊田利一



た。

平成30年の三重インターハイまで、いよいよあと3年となりました。今年、三重交通Gスポーツの杜伊勢・県営陸上競技場を新しくするための工事も始まる予定です。企業や行政の支援を受け、すばらしい舞台を造る準備は着々と進んでいます。そして、その舞台ですばらしいパフォーマンスを披露する選手の育成は、三重陸協の大きな課題です。昨年「Road to 2018 プロジェクト」がスタートしました。小学校、中学校、高校が連携して選手を発掘し育成していくためのシステムがつくられました。それぞれの垣根を越えた連携は、三重陸協が今まで培ってきた強みです。それぞれの立場で、それぞれの役割を履行していくとともに、お互いに連携し協働していくことで、大きな成果を生み出してほしいものです。平成30年三重インターハイで活躍し、平成32年東京オリンピックの舞台に立ち、平成33年三重国体で活躍するといった選手が、三重県から誕生することを期待します。

新年度に向けて

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 一一一



2015年も早1ヶ月を過ぎようとしています。昨年度末には、全日本実業団駅伝でデンソー(大安製作所)女子が連続優勝をしてくれましたし、1月早々の実業団駅伝男子では、NTN桑名製作所が8位入賞。素晴らしい成績を残してくれました。「終わりよければ全てよし」といつてほしいものです。2015年を迎え、残すところ三重インターハイまで3年、国体まで6年と目前に迫っております。本県としても、まだまだ多くの課題を残しております。インターハイ・国体に向けての強化の一環として、「Road to 2018」の強化指定選手から始まり、選手・指導者に向けての練習会・講習会を実施してきましたが、これは、一朝一夕には効果が表れません。(これからの成長に期待したいと思います)それとともに、数年前から指導者の普及育成を積極的に取り組み、地域での研修会等を開催してきました。これからの国体を目指した取り組みとしては、将来の三重国体に向けた選手育成には非常に大切な活動と思っています。年末12月には、指導者向けの「日本陸連 ジュニア公認コーチ」の研修会を本県で開催することができ、県下から多くの指導者が参加。医学・バイオメカニクス・栄養学など、これからの選手育成に非常に役に立つ研修だったと思います。今までの指導法に医学にも目を向けて頂きたいと思います。さて、全国大会で多くの成果を残してきた県出身の競技者が

大学・実業団で頑張っています。(国体や都道府県対抗の駅伝などに協力していただき、有難く思っております)その三重県で育てた選手を、この三重の地で育てていきたいと思うのですが、面倒を見て頂ける企業回りを行ってあります。(現在はまだまだ難しい状況ですが)これから、協力していただけないかなと思います。企業に直接出向き、お話を聞かせて頂くと思います。我々陸上競技の環境整備を整え、三重から一人でも東京オリンピックに選手を輩出したいと思っています。そのためにも、我々指導者もオリンピックに向けた長期計画のもと、選手育成を考えていきたいと思いたす。トップ選手の将来に向けた大学・実業団などで活躍できる、発育発達に即した選手育成を考へなくてはなりません。東京オリンピック・三重国体・インターハイに頑張れる支援を考えていきたいと思いたす。皆さんのご協力をお願いします。

ご協賛をいただいた企業

- 学校法人 高田学園
- 桑名スポーツ
- 魚定
- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- 株式会社 まるかつ
- ぎゅーとら
- 麻野館
- 山本整骨院
- 八千代工業株式会社
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックス販売株式会社
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜経済大学
- 鈴鹿医療科学大学

(敬称略)

日本陸上競技連盟栄章

長崎国体期間中、2013年度高校優秀指導者章・中学優秀指導者章の表彰が行われました。

- ◇ 高校優秀指導者章 松尾大介氏
- ◇ 中学優秀指導者章 加藤邦佳氏

各地区陸協報告

桑名陸協

昨年はいなべ市内にチームのある株式会社デンソーが全日本実業団女子駅伝に出場し、一昨年に引き続きみごと二連覇していただきました。また、桑名市にあるNTN株式会社が全日本実業団対抗駅伝競走大会で1977年以来38年ぶりに入賞するなど地区内の企業が駅伝ですばらしい結果を出していただきました。

トラック競技でも国民体育大会で愛敬彰太郎選手(桑名高校出身、現早稲田大)が成年男子400mで5位に入賞、大月菜穂子選手(桑名高校出身、現京都教育大)が成年女子400m8位に入賞するなど、地区内の選手が三重県の代表として活躍していただいている事は大変嬉しく思います。

小学校、中学校の低迷が続いている中、中学校では指導者の指導方法の標準化に向けてとともに桑名地区の底上げを目指すため指導者の資質向上を行うため合同の練習会を実施し、選手のみならず中学校の指導者への練習方法の指導をおこないました。

平成27年度からは中学校の教員の審判員登録をお願いし、中学校教員のみで大会が実施できるよう、教員の審判員としての資質向

上も目指し進めていく必要があると考えます。

毎年の課題でもありますが、審判員数の減少から、若い審判員の育成も急務とされ、一人でも多く高校卒業者を審判員として登録してもらい、三重国体、三重インターハイ等で審判員として活躍できる審判員の育成をしていきます。

三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。ソフト面では、小学生から高校生までのそれぞれの校種において多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。ハード面においては、待望のナイター設備が完成し、中央緑地陸上競技場において夜間でも多くの人が学校や会社勤めの帰りに練習等に取り組むことができるようになりました。また、9月にはナイター設備を利用した長距離記録会も実施し、好記録が多く出ました。

三泗地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校でクラブをしっかりとできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげ

で一定の成果をあげてきてくれました。それに加え、協会としても更なる充実を目指して一昨年の4月にクラブチームを発足させました。昨年は県外から著名な講師を招いて練習会を実施する等、自身の充実に努めてきました。また、前述した通りナイター設備ができたおかげで練習の時間帯にも融通がきくようになりました。練習方法や中学校との連携等においてもまだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。

難うございました。

また、各年代の選手の育成に尽力いただいた指導者の皆様、大会運営に携わっていただいた皆様方に改めて御礼申し上げます。それでは各年代で活躍した鈴鹿市出身選手を紹介します。

小学生では佐藤なつみ選手(イムラA)が短距離から長距離まで幅広く活躍し、100mでは13秒08、800mでは2分28秒64の県小学生記録を樹立しました。全国大会には男女走高跳で桜井登馬選手(石薬師RC)、清水智奈選手(ASSA-ITC)が出場しました。

中学生では男子が1000mで須崎雅也選手(白子)、4000mで永洞郁也選手(白鳥)、砲丸投で白井智哉選手(創徳)の3名、並びに神戸中学校男子が4000mRで全日本中学選手権に出場し、須崎選手は三重県主要3大会ですべて優勝しました。

高校では男子走高跳で加藤健太郎選手(鈴鹿高専)が全国高校総体に見事3位入賞し、秋の長崎国体でも三重県代表として8位に入賞しました。

他にも鈴鹿市出身で市外の高校に進学した選手達がインターハイや国体、特に駅伝で大活躍してくれました。

今年度も鈴鹿市内外から多くの選手が競技会に参加いただき有り

藤選手は東京グランプリで国際大会参加B標準である2m28(県新記録更新)をマーク、全日本大学選手権も優勝し2月からヨーロッパ遠征に参加しています。来年は鈴鹿に練習環境を戻す予定ですので、さらなる活躍を期待したいと思います。

また、年末に開催された全国中学駅伝には神戸中学男子チームが昨年に続き3年連続出場するという快挙を成し遂げました。県大会ではアンカーがラスト30mで逆転し、掴んだすばらしい勝利でした。

これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのためものと深く感謝いたしております。

平成27年4月からはまた新たなシーズンが始まります。数年後に開催される三重県インターハイ、三重国体に向けてさらなる普及と強化が求められていますので関係者とともに地区陸協を盛り上げていきたい所存です。

新年度も鈴鹿陸協発展のために皆様のお力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

1月に開催した「第23回かめやま江戸の道シティマラソン大会」は昨年、全日本実業団対抗女子駅伝大会を大会新記録で二連覇を果たしたデンソー女子陸上長距

離部をゲストランナーとしてお迎えし、近隣の高校や団体も多数ご参加いただき、1,838名の参加となり昨年より100名増えました。ウォーキングなど参加クラスも考慮しながら多くの皆様にご参加いただけるよう今後も工夫を凝らしてシティマラソンを更に発展させていきたいと考えています。

亀山陸協

1月に開催した「第23回かめやま江戸の道シティマラソン大会」は昨年、全日本実業団対抗女子駅伝大会を大会新記録で二連覇を果たしたデンソー女子陸上長距

離部をゲストランナーとしてお迎えし、近隣の高校や団体も多数ご参加いただき、1,838名の参加となり昨年より100名増えました。ウォーキングなど参加クラスも考慮しながら多くの皆様にご参加いただけるよう今後も工夫を凝らしてシティマラソンを更に発展させていきたいと考えています。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」は昨年入賞を逃しましたが、連帯感も強まる中、今年再び入賞を目指して出場しました。

審判の人数は少ないですが、亀山高校の生徒さんや先生方及び各団体の指導者の方々にもお手伝いをいただいで、シティマラソン大会の他に小学生の陸上競技会、スポーツ少年団の駅伝大会、亀山市駅伝大会等を運営しています。また、今後県内で開催されるビッグ大会に活躍できる選手の育成にも各団体と連携を取り進めていくと思っております。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」は昨年入賞を逃しましたが、連帯感も強まる中、今年再び入賞を目指して出場しました。

審判の人数は少ないですが、亀山高校の生徒さんや先生方及び各団体の指導者の方々にもお手伝いをいただいで、シティマラソン大会の他に小学生の陸上競技会、スポーツ少年団の駅伝大会、亀山市駅伝大会等を運営しています。また、今後県内で開催されるビッグ大会に活躍できる選手の育成にも各団体と連携を取り進めていくと思っております。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」は昨年入賞を逃しましたが、連帯感も強まる中、今年再び入賞を目指して出場しました。

津陸協

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。

平成26年度を振り返ると、前年度にハーフマラソンでジュニア日本最高記録を樹立した岩出玲亜さん（ノース）が、さらに成長して平成26年11月に実施された横浜国際女子マラソンで初マラソンながら2時間27分21秒の好記録で3位に入賞し、世界が視野に入ってきました。また、8月の全国小学生交流大会で須川真衣さん（志Beast・立成小）が女子6年100mで優勝し、昨年の5年女子100m優勝からの連覇を達成しました。さらに、全国大会では茂山千尋さん（国士舘クラブ、日本選手権女子砲丸投）、村木亮太さん（久居高、全国高校総体男子ハンマー投）、日本ユース選手権男子ハンマー投）、山本フェビアスさん（宇治山田商業高、全国高校総体男子4×400mR）、谷口史弥さん（久居高、日本ユース選手権男子ハンマー投）、山田隼也さん（津高、日本ユース選手権男子三段跳）、大村隆人さん（津西高、日本ユース選手権男子三段跳）、斎藤真帆さん（津西高、全国高校選抜大会女子三段跳）、別所竜守さん（一身田中、全日本中学校選手権男子砲丸投、ジュニア

オリンピック男子A砲丸投）、瀬々奈璃乃さん（志Beast・一志東小、全国小学生交流大会女子80mH）が入賞し、本年度全国大会へはリレーで出場したため個人での入賞はなかったものの11月に男子100mで三重県小学生新記録を樹立した中垣内太智さん（志Beast・西が丘小）など、津地区および津地区出身の選手たちが活躍してくれました。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、26年度も伊勢度会、鈴鹿、三河、松阪など多くの地区陸協さんの暖かいご配慮を賜り、大会や記録会を実施させていただきました。お礼申し上げます。もうしばらく、この状況が続きます。よろしくお願い申し上げます。

津市へ競技場新設への要望を継続して行い、平成30年高校総体、32年東京オリンピック、33年三重国体に向けて、小中高の連携を深め、さらに陸上競技の普及・強化に努めていきたいと考えています。

松阪陸協

今年の松阪陸協の活動というところ、県内外の方からたくさん協力をいただいた、競技場建設に向けての署名活動があげられると思います。11,000人を超えるみなさまより、署名をいただき、陸上競技の中心となり得る場の実現に向けて、第一歩を踏み出させて

いただきました。早期の完成を目指して今後も取り組みをしていきたいと、考えています。また、協力いただいた方には、本当にお礼申し上げます。次に、競技成績については、小中高の連携を重視していく中で、様々な成果をあげることができました。中でも、嬉野中学校女子による4×100mR全国大会出場は、松阪地区初めての快挙であり、小学校から陸上を始めた子どもたちが中学校でさらに花を咲かせたという点で、本当にすばらしいことだと考えます。

また、松阪商業高校の濱田さんの日本ユース選手権ハンマー投げ優勝も今年度の快挙として、喜ばしいことと考えております。松阪地区陸協は規模も小さく、少人数での運営となっておりますが、今後も、小中高の合同練習会などを開くなど、連携を大切にしたいと考えています。

伊勢度会陸協

平成26年度は長崎で行われた国体で伊勢度会陸協の選手が大活躍してくれました。2日目に登場した少年A女子ハンマー投の雪岡野絵さん（宇治山田高校）は途中までトップに立ち「優勝も」と期待された展開での2位。遠路はるばる応援に駆け付けてくれた同校陸上部員の声援に伝える、また三重県チームを勢いづける結果といえるものでした。続いて午後に行な

われた少年A男子ハンマー投でも東浦貫太くん（宇治山田商業高校）がIHの2位に続く5位入賞。この後も同じ宇治山田商業の直江航平くんが少年男子A400mで3位、野村智也くんはIHの雪辱を果たし、少年男子A走幅跳（2位）、少年男子共通三段跳（6位）のダブル入賞という大活躍でした。

今年にはIH・国体に向けた新しい競技場の工事も始まります。いろいろな不便な面もあると思いますが、各方面のご協力をお願いいたします。

鳥羽志摩陸協

平成26年度は、文岡中学校が男女の低学年リレーで三重県中学校記録を樹立したことや浜島中学校の中村君が、三重県中学校陸上競技大会の男子800mで大会新記録を樹立したこと、伊賀白鳳高校の中畑君が三重県高等学校駅伝競走大会（7区）で区間新記録を樹立したことなど充実した1年間でした。

昨年度から県大会で入賞した小学校6年生のうち、中学校でも陸上競技を続ける意思のある選手を強化選手に指定し、冬季練習を実施しました。その選手たちが平成26年度のシーズンで活躍してくれました。また、小学生は、志摩市内の3つのクラブチームを中心に長年活動してきましたが、平成26年度

には、鳥羽地区にも小学生対象のクラブチームを月2回程度の活動でスタートさせることができました。これもうれしい話題です。

年末恒例となった冬季練習会も国府の浜で他地区のチームを招いて盛大に開催することができました。少しずつではありますが他地区との交流ができてきたことも大きな成果であります。

土曜授業や学校の統廃合、審判の確保など様々な問題もありますが、鳥羽志摩陸協一丸となって今年度も頑張っていきたいと思っております。

伊賀陸協

伊賀市の平成26年度も、小・中学生・高校生など学生の活躍が目立った年でした。全国小学生陸上競技交流会では、青山小学校の水君がボール投げで2位に入賞、高校総体・国体では、白鳳高校の選手をはじめ入賞するなどありました。

12月の都大路の全国高校駅伝では、伊賀白鳳高校男子駅伝チームが入賞こそ逃しましたが、1区下君の区間賞をはじめ7名の選手がしっかりとたすきをつなぎ10位でゴールする活躍がありました。

24年3月には、4種ではあります。24年3月には、4種ではあります。リニユールされ、25年4月には、観覧席や会議室が増設されるなど競技場もよくなり、小学生を対象

にした教室を開催するとともに小学生・中学生を中心に高校生・一般の参加をしていただく記録会や大会を計画中ですが、学校統合等でスタッフが減少・高齢化し、大会の運営が心配されます。

今年で名張市体育協会は創立60周年を迎えることができました。この60周年記念式典をお祝いするために前人未踏の記録を持つ吉田沙保里さんをお迎えしてトークショーを開催し、創立を盛り上げることができました。その後は各協会で活躍された方たちの表彰が行われました。陸上競技協会からは、名張北中から伊賀白鳳高校に進学し2年連続全国高校駅伝で第3位に入賞を果たした辻野恭哉選手と中倉優也選手と名張南中出身の近藤聖選手と表彰が行われました。次にアジアマスターズでW65の部で800mと1500m大会新で優勝された山崎滋子さん、M65の部で1000H、3000H優勝。M40の部で4×400R大会新で優勝された保坂政志さん、国際ゴールドマスターズ大会3種目優勝、三段跳びで大会新を出した徳地和子さんが表彰されました。

名張陸協

今年で名張市体育協会は創立60周年を迎えることができました。この60周年記念式典をお祝いするために前人未踏の記録を持つ吉田沙保里さんをお迎えしてトークショーを開催し、創立を盛り上げることができました。その後は各協会で活躍された方たちの表彰が行われました。陸上競技協会からは、名張北中から伊賀白鳳高校に進学し2年連続全国高校駅伝で第3位に入賞を果たした辻野恭哉選手と中倉優也選手と名張南中出身の近藤聖選手と表彰が行われました。次にアジアマスターズでW65の部で800mと1500m大会新で優勝された山崎滋子さん、M65の部で1000H、3000H優勝。M40の部で4×400R大会新で優勝された保坂政志さん、国際ゴールドマスターズ大会3種目優勝、三段跳びで大会新を出した徳地和子さんが表彰されました。

名張市陸上協会の1年間の主な事業としては、5月に開催される小学生陸上競技大会、8月に行われる市民大会兼マスターズ大

尾鷲陸協

会、7、8月に行われるナイター長距離記録会、11月に行われるひなち湖紅葉マラソン、2月に行われる青蓮寺湖駅伝競走大会があります。強化としては、小学生陸上教室を3年生から6年生まで土曜日の午後2時から4時まで隔週で行っています。今年は55人の募集が有りグラウンドが霜で使用出来ない時は体育館で行っています。

尾鷲陸上競技協会は、平成24年度に山本勇人会長を中心に組織の世代交代を行い、新生尾鷲陸協として活動を開始させました。

このような事業を支えているのは、今年で結成5年目を迎える名張クラブの皆さんです。名張クラブは、小学生から高齢者までの陸上愛好者が週に2回近大高専と名張桔梗丘高校のグラウンドをお借りして午後8時から10時まで1時間は体幹づくりとストレッチ体操、残りの1時間は各種目に分かれて専門練習を行い、最後の5分間は全員でリレーし練習を終えます。

その経緯は、尾鷲地区の陸上競技部出身である若い世代が、社会人として地元で多く帰省してきていることを背景に、若い力と発想で尾鷲地区の陸上競技を盛り上げようと考えたことからです。

現在、小学生22人、中学生20人、高校生6人、大人35人(19歳から74歳)で活動をしています。

現在、陸上少年団の指導を中心に活動しています。各県大会・地区大会への積極的な参加や、地方で開かれている陸上教室への参加も行っています。

また、中学校や高校へも出向き、一緒に練習する機会を設け、地域内のコミュニケーションと各学校の指導者との連携を強める活動も行っています。

若い力のメリットは、指導も行うが一緒に練習することができるところにあり、選手と同じ目線で活動できる点にあります。より学生に楽しく陸上を行ってもらうためにも大切な活動だと思っています。

名張市の陸上競技場も公認記録が認められず随分皆さんにご迷惑をおかけしましたが、10年間陳情を続けた結果来年度から全天候型トラック8レーンが工事開始となり、29年度には4種公認グラウンドとして生まれ変わる予定です。

まだまだ未熟な組織ではありませんが、今後もこの若い力と発想を活かしていい組織と地域づくりに貢献できればと思います。

風光明媚なこの名張の地で、どんどんナイター記録会を開始し、名張から三重国体で活躍する選手を輩出できるように努力していくつもりです。

北牟婁陸協

本年度、北牟婁陸協として喜ばしい話題がいくつかあります。1つは、潮南中学校出身で現宇治山田商業高校2年生の直江航平が、日本ユース選手権で400mに優勝した勢いそのまま国体(少年A400m)に出場し、3本のレース全てで自己記録を更新して2年生として最上位となる47秒23の好記録で3位に入賞したことです。

本年度は、北牟婁陸協として喜ばしい話題がいくつかあります。1つは、潮南中学校出身で現宇治山田商業高校2年生の直江航平が、日本ユース選手権で400mに優勝した勢いそのまま国体(少年A400m)に出場し、3本のレース全てで自己記録を更新して2年生として最上位となる47秒23の好記録で3位に入賞したことです。

また、紀北中学校2年生の東海斗、九嶋大雅の2人が3000mでそれぞれ9分9秒10の好記録をマークして県の4、5番手あたりで走っていることです。九嶋大雅はB1500mで三重県の代表としてジュニアオリンピックにも参加しました。こういった若い世代の今後の活躍が非常に楽しみです。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

逆に「美し国三重市町対抗駅伝」では7年連続入賞を果たしたものの、前回は過去最低の8位であったことが懸念材料となっています。過疎化に拍車がかかり、人材を確保することが難しくなっています。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

指導者が少ないことと、陸上部のある中・高が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生と継続的な指導ができるようにしています。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

今後、熊野地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野RC」の活動を中心に活動していきたいと考えています。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

熊野陸協は、毎週土曜日の夕方に熊野市営グラウンドで、毎週水曜日の夜には飛鳥中学校グラウンドで行っています。また、飛鳥中学校グラウンドでナイター自主練習も始めました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

本年度、熊野RCには小・中学生合わせて66名が在籍しています。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

各部・委員会等報告

普及部

平成26年度は、全国小学生交流大会で一志Beastの須川真衣さんが昨年に引き続き1000mで優勝。同じく一志Beastの瀬々奈瑠乃さんが女子800mで6位、男子ソフトボール投では青山の清水大晟君が2位と素晴らしい成果をあげていただきました。

普及部の今後の活動に、まずまずのご支援ご協力をお願いしたいと思います。

中体連

平成26年度は、全国小学生交流大会で一志Beastの須川真衣さんが昨年に引き続き1000mで優勝。同じく一志Beastの瀬々奈瑠乃さんが女子800mで6位、男子ソフトボール投では青山の清水大晟君が2位と素晴らしい成果をあげていただきました。

平成26年度の中体連では、全日本中学(香川県)で2種目入賞、ジュニアオリンピック大会(横浜)でも2種目入賞と全国レベルの大会で結果を残すことができました。中でも全日本中学で加藤菜未さん(多気中)が四種競技で4位入賞を果たしました。記録も三重県中学新記録を樹立することができました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。



熊野陸協

本年度、熊野RCには小・中学生合わせて66名が在籍しています。

また、本年度も、外部より講師を招いての「陸上教室」や「テーパー」を数回開催し、多くの方に参加していただきました。

高体連 JAAM

クラブチームで育てていただいている選手の活躍も多くなってきています。学校側とクラブチームがうまく協力し合いながら、共に力を合わせて選手が意欲的に活動できることを願っています。

来たる平成30年度(2018年)には、本県にとつては二回目となる第71回全国高等学校総合体育大会が開催されます。

昭和48年度(1973年)に三重県で開催された第26回大会は、

それまでの先人たちのいろいろな思いが結集し、爆発したような大会でした。三重県勢は3校(宇治山田商、四日市工、松阪女子)から7種目(男子800、1500、4×100R、4×400R、女子200、砲丸投、円盤投)に優勝。「開催県における7種目優勝」は長い全国高校総体の歴史の中で最多数を誇ります。中学二年生で

大会のファイナルを飾る男子4×400Rの宇治山田商と山口・萩との一騎打ちは今大会の県勢の大活躍を象徴するようなレースと

あった私は毎日「競技場」に通い、先輩方の大活躍を目の当たりにしました。

一日目の男子1500mでは瀬古

利彦選手(四日市工)がバックスト

レートから切れ味鋭く抜け出して優

勝。大会初日の地元優勝で三重県全

体が波に乗り、男子三段跳、円盤投、

女子100、400、100H、4×

100R、砲丸投でも入賞者(宇治

山田商、桑名)が生まれました。女

子学校対抗では宇治山田商が優勝

男女の学校対抗では宇治山田商、四

日市工(以上男子)、松阪女子が入賞

しています。

大会のファイナルを飾る男子4

×400Rの宇治山田商と山口・

萩との一騎打ちは今大会の県勢の

大活躍を象徴するようなレースと

なりました。優勝候補筆頭の萩に

対して、エースの宮山選手を第一

走者に起用し、先手を取る山商を

萩が追走。「抜きつ抜かれつ」の

レース展開となり、最後はスロー

モーションを見るようなスピード

で両校がゴールにだれだれ込み、胸

の差で山商が優勝を飾ったので

す。この時の競技場の盛り上がり

は、今でも思い出すと胸が熱くな

ります。陸上競技がスポーツの領

域を超えた素晴らしい瞬間であり

ました。あの感動と栄光は世代を

またぎ、時を超えて、脈々と私た

ちの中に受け継がれています。

今年度を目を転じてみますと、

夏の全国総体(山梨)では男子が

県別対抗で5番目の成績を上げ、

秋の長崎国体では女子も奮起し、

ハンマー投や棒高跳を中心に好成

績を上げました。二年連続で入賞

していた全国高校駅伝(男子)で

は、伊賀白鳳が区間賞を2名獲得

入賞こそ逃しましたが、存在感を

示しました。三重県高校駅伝にお

いては、白山が三年目にして初め

てタスキをつなぎ、折返点まで繰

上げなして走るという「冬の陽だ

まりの暖かさ」を感じさせるうれ

しい出来事もありました。

これから2018年の全国高

校総体、2020年東京五輪、

2021年三重国体と続き、私た

ちにとつても絶好の「飛躍の機会」

が訪れます。今度は「私たちの出

番」です。諸先輩の偉業は「遥彼

が、素晴らしい手本を目標として、多くの仲間とともに本番を迎えるよう精進していきます。

競技部 JAAM

過密な大会スケジュールの中、競技運営にご尽力をいただいております。ありがとうございます。

本年度、実施大会においての反

省点・申し送り点がいくつかあり

ましたので、ご報告します。

① 競技参加条件について。(大

会参加標準記録など)

② 大会実施方法について。(1

組あたりの参加人数・タイム

テーブルなど)

③ 大会運営について。(計測ラ

イン・審判方法・練習方法など)

④ 大会の実施について。(荒天

の場合の判断など)

①・②・④については、反省・改善

申し送りを踏まえて、総務にて作成

判断をさせていただきます。

③につきましては、特に審判方法

でミス・不備が数点見受けられ、順

位等成績に関わる事例もありました。

今後、ミス・不備を無くすため

に必要なことは、「連携」や「習得」

ということを基本に「より間違い

のない」「よりスムーズに」「より

安全に」といった「改善」が常に

必要となります。

参加選手のための大会、参加選

手のための審判、であることを前

提とし、より良い大会運営を実施

をお願いします。また、「改善」のためのご意見を是非、お聞かせください。

強化部 JAAM

日頃は強化委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り、大変ありがとうございます。

平成26年度の国民体育大会(長

崎国体)の天皇杯は55点で16位、

皇后杯は20点で28位でした。

また、先日終了しました京都で

広島での男子駅伝は15位でした。

強化委員会としましては、国民

体育大会と都道府県駅伝大会の2

つの大会において、結果を出すべ

く、選手強化をしていかななくては

ならないと考えています。

国体強化につきましては、例年、

候補選手のピックアップ作業を秋

から行い、三重県選手権後に「オー

ル三重」の選手団を編成し、強化

合宿を行っています。来年度の

和歌山国体に向けて、各種目別の

練習会を冬季から始め、定期的

に実施しています。

都道府県駅伝について、女子は12

月にデンソーさんのご厚意で中高生

を集めた合宿を昨年度より実施して

中学生の走りに成果が表れました。

また、三重インターハイ・三重国

体に向けて、普及部と強化部とが連

携を深めて、中学生とその指導者に

対しての練習会を名張地区にて実施

しました。11月には四日市市の小学

平成26年度国体・都道府県対抗駅伝報告

平成26年度 第69回 国民体育大会(長崎国体)

天皇杯は55点で16位、皇后杯は20点で28位で、男子総合は10位でした。

今年度は優勝こそ逃しましたが、高校生がよく頑張ってくれました。少年女子Aハンマー投で、宇治山田高校の雪岡さん、少年男子A走幅跳で宇治山田商業高校の野村君が共に2位入賞、12種目入賞のなかで、高校生は9種目に入賞してくれました。

皇后盃 第33回 都道府県対抗女子駅伝 27位 2時間22分43秒

実業団駅伝で2連覇をしたデンソーチームの選手が良く頑張っていたいただきましたが、少年選手でうまくつなげることができませんでした。監督からは、自分の目標タイムには責任をもつことが必要であるというコメントがありました。

天皇盃 第20回都道府県対抗男子駅伝 15位 2時間21分59秒

1区の下選手が区間2位の快走でトップを争いましたが、佐々木選手(中2)の経験不足もあり、上位を維持することができませんでした。しかし、後半の選手で徐々に挽回し、15位とまずまずの結果を残してくれました。

校に出前授業も実施しました。

今年度より強化指定選手制度も開始し、「Road to 2018」のスローガンで中学1・2年生を中心に70名ほどの選手を指定しました。三重インターハイ・国体の中心選手として活躍していただくことを願います。

来年度以降も見直しながら、継続していきます。

また、先生方に対しても指導者講習会を実施しましたが、強化指定にピックアップした選手も一緒に参加して、よいムードで行われました。

27年度以降も積極的に指導者講習会を実施して、選手強化につなげられるように努力していきたいと思えます。

目標とする国体・都道府県駅伝さらにはインターハイや全日中などで結果を出すためには、選手の努力はもちろん、指導者も器を大きくして、選手との信頼関係を深めながら、トレーニングに取り組みなければならぬと思えます。皆様のご協力、ご理解が必要となりますので、よろしくお願いたします。



本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度は、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、年間11大会延べ23日間のトレーナー・救

護活動と年間10回のスキルアップ

セミナーにトレーナーだけでなく一般の方の参加も募り、コンディショニング等の知識を知っていた

その中で、本年度も長崎県開催の国体本大会及び国体合宿への帯同を行い、選手のケア・コンディ

ショニングにあたりました。しかしながら、国体関係の日程とトレーナー部員の日程の調整が上手くいかず、本大会には1名のみ派遣ということになりました。現在、部員には学生が多く期間中には授業があり、また社会人の部員には勤務があるため、平日の活動は極めて難しい状況にあるので、

全国総体、国体を控えてどう対処していくかが課題になっています。

また、今年度は大会期間中に大変残念で悲しい出来事がありました。それに、競技中に起こる突発的な傷害とは別に、熱中症など天候等の環境条件が起因となる障害も多く起こりました。今後そういった障害に対しての注意喚起や選手・指導者本人の対処法及び知識の習得も大変重要な課題であると思えます。

来年度も今以上スタッフのスキルアップを図り、選手の方々が安心して安心して臨める大会づくりに尽力して参りたいと思えます。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願ひ申し上げます。

デンソー大会新記録で2連覇!



第34回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会(クイーンズ駅伝in宮城)で、デンソーが大会新で二連覇を達成するという偉業を達成しました(この大会で連覇を達成したのは6チーム目になります)。

大会は、昨年12月14日、松島町文化観光交流会館前から仙台市陸上競技場までの6区間42.195kmで行われました。

1区は12位でスタートしましたが、2区で3位まで順位を上げ3区主将の高島由香選手が、区間新で区間賞のすばらしい走りです。デンソーが樹立した2時間16分37秒の大会記録を上回る2時間16分12秒で2連覇を達成しました。高島選手は、大会の優秀選手に選ばれました。

すばらしい結果を残し、三重に感動と勇気をいただいた、監督、選手の皆さんからコメントをいただきました。

〈若松 誠監督〉

今年「RESTART」の更なる高みを目指して」の

であるいい流れを作ることが出来ることに引き続き区間に助けてもら

来年は3連覇目指し、そしてメンバーに選ばれるようにまた頑張ってください!

〈2区 小泉直子選手〉

応援や声援がすごく力になりました!ありがとうございます!

2連覇をして嬉しいですが、トップで襷をわたすのが私の役割だったのでそれで達成出来ず悔しい気持ちでいっぱいです。

来年はエースに頼らないようにもともと強くなってからは3連覇出来るようにこれからまた頑張りたいと思えます。

〈3区 高島由香選手〉

この1年間は2連覇を目標にやってきました。チームみんな力をあわせてその目標を達成できてすごく嬉しかったです!



個人としても、ずっと夢にみた3区での区間賞をとることができました。この1年間チームみんなで頑張ってきてよかったなと思える1日になりました。

本当にありがとうございます!

〈4区 スーサン ウィリム選手〉

二連覇できてよかったです。でも、区間賞がとれなかったので、来年は区間賞がとれるようがんばりたいと思えます。

〈5区 水口侑子選手〉

念願の2連覇を達成できてとてもうれしいです。苦手なコースで不安もありましたが、盛大な応援に背中を押され、最後まで踏ん張ることができました。

皆様と一緒に掴み取った優勝でした。

次は3連覇というもう一段階難しい目標にチャレンジしたいと思いますので、これからも応援よろしくお願いします。

〈6区 石橋麻衣選手〉

今回6区を走らせていただきました。目標としていた2連覇を達成することができて嬉しかったです。皆さんの声援が本当に力になりました。

この結果に満足することなくまたチーム全員で頑張っていきます!

本当にありがとうございます!

